

STOP! 精神医療センター富谷移転、  
2・23 みやぎユーザーズアクション

“声なき声と共に”

# Action News

アクションニュース

vol.021

2023.8.11

【毎週金曜日発行】

stop.iten223@gmail.com

誰の願いを叶えるための  
県政だろうか？



宮城県庁入口の七夕飾り

**みやぎアピール大行動要望書提出  
村井嘉浩県知事と面談しました...P2**

Nothing about us without us!

私たち抜きに私たちのことを決めるな！



facebook

## みやぎアピール大行動要望書提出 村井嘉浩県知事と面談しました



知事に要望書を渡す鷲見代表

### 誰の願いを叶えるための 県政？知事面談雑感

8月4日(金) 県内39の障害者団体などをつくる「みやぎアピール大行動実行委員会」の「県障害施策の拡充を求め要望書」提出及び知事面談に参加し、精神医療センターユーザーとして発言者の一人にさせていただきました。

知事面談では少し緊張しましたが「知事は定例記者会見などで『公約だから四病院の移転構想を実現させる』『富谷なら新しい病院が早く建てられる』とおっしゃるが、精神医療センターを富谷市に移転させるという構想自体が、県南のこれまで精神医療センターを利用してきたユーザーにとっての不安になっている。とても通うことが出来ないからです。精神障害者が求めるのは具合が悪いときに医療に繋がれるという安全と安心です。何年も前から精神医療センターの老朽化はいわれており建替えの構想があったにもかかわらず、我々の話も聞かずに富谷市移転ありきでお話を進められるのは差別ではないのか。移転計画で我々が体調を悪化させる可能性もあることを

考えていただきたい」と訴え県立精神医療センター富谷市移転反対の立場を強調しました。

村井知事からの「南(県南地域)を切り捨てることはない」「心配事を一つでもなくすようにしたい」旨の発言がありましたが、これまでの知事発言同様、具体性に欠け、

納得できる応答はありませんでした。

また、「患者団体となかなか会ってもらえない。(発言者を指し)〇〇さんが膝詰め話を聞く機会をつくってほしい」とも知事から発言がありましたが、我々が感情論で会わないのではなく、県(知事)の主張する『富谷市移転ありき』では、県立精神医療センター利用者として会談するメリットがないことについて理解が通じているのか？疑問が残ったままです。

知事退席後の担当部局との懇談では、「災害医療」での定期的な協議の場を求め、就学中の介護保障や優生保護問題など12項目について、県側と意見交換しました。

印象に残ったのは、優生保護法による強制不妊手術をめぐる議論で、「宮城県は全国で2番目に被害者の数が多いという不名誉だが、県として国とは別に謝罪・補償をする方針は無いのか」という切実な質問に対して、県の担当部署が「国の方針に従う」の一点張りだったこと。筆者はこの問題について詳しくはないので間違った理解であれば申し訳ないのですが、いかに優生保護法という国の方針で被害者

が出たとはいえ、実際に手を下したのは県であるのだから、責任逃れも甚だしいという感想を持ちました。

また最後に発言された聴覚障害当事者の方の「県はアクセシビリティの拡充をうたいながらも、実線面で全く足りていない。今この障害を持つものが来るという事で準備された場所ですら私に理解できるように手話通訳の方が通訳できないような、マスク着用のくもぐった声、早口、専門用語の羅列で発言するものが多く、会談の1時間半のうち理解できたのは15分程度であった」ということばには、今後はいかなる場でもわが身を顧みようと反省をしました。

その発言を受けて最後に「間違いは誰にでもあるが、(誰であれ)気づいたときにそれを正す事が大事である」との言葉で懇談は締めくくられました。是非、村井知事にも公約だから任期中に実現すると四病院再編に固執せず、我々県民の声を受け止めた柔軟な対応をとっていただければと思います。



知事会見に臨む